

## 5 アルコール(案)(H.23.5.26版)

### 〈指標の達成状況〉

改善した	目標値に達した		
	目標値に達していない		
変わらない			
悪くなっている			

※各指標の達成状況については、別添シート参照

### 〈総括評価〉

○多量に飲酒する人の割合については、わずかに増加しており、悪化している。

○未成年者の飲酒率(月に1日以上飲酒しているものの割合)は低下傾向であるが、男性に比較し女性の改善が低い。

○節度ある適度な飲酒の知識の普及についてはわずかに改善がみられた。

### 〈指標に関連した施策〉

○アルコール対策担当者講習会の開催(平成16年度から)

○未成年者飲酒禁止法(大正11年法律第20号)

○「未成年者飲酒防止強調月間」(平成13年10月決定)

○未成年者飲酒防止に係る取組について(平成13年12月28日3省庁局長連名通知)

○アルコールシンポジウムの開催

○ホームページを活用した情報提供

○「アルコール保健指導マニュアル検討会」報告書(平成14年3月)

○循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業

○「酒類販売業に関する懇談会」取りまとめ(平成16年12月国税庁)

○「酒類に係る社会的規制等関係省庁等連絡協議会」の設置(平成12年4月)

○未成年者の飲酒防止等対策及び酒類販売の公正な取引環境の整備に関する施策大綱(平成12年8月)

○「未成年者飲酒防止に係る取組について」を警察庁、国税庁及び厚生労働省より発出(平成13年12月)

○アルコール教育実践講座((独)国立病院機構久里浜アルコール症センター)

○若者の飲酒を考えるフォーラム((独)国立病院機構久里浜アルコール症センター)

# 健康日本21の目標値に対する直近値に係るデータ評価シート(案) (H.23.5.26版)

## アルコール分野

記載留意事項・・・各項目の冒頭には、見出しとして分析結果、課題等を要約として記載してください。  
詳細なデータ解析をした場合は、解析結果や二次資料を添付してください。

分野: アルコール			
目標項目: 5. 1 多量に飲酒する人の減少(多量に飲酒する人の割合)(注: 多量飲酒=1日平均純アルコール60gを超えて飲酒)			
目標値	策定時のベースライン値 (H8年度健康づくりに関する意識調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値 (H21年国民健康・栄養調査)
a) 成人男性 3.2%以下	4.1%	5.4%	4.8%
b) 成人女性 0.2%以下	0.3%	0.7%	0.4%
コメント			
(1) 直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
	○男女ともにベースライン値に比べると悪化しているが、中間評価に比べると改善傾向である。		
(2) データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	○国民健康・栄養調査では、飲酒頻度と飲む日の飲酒量をそれぞれカテゴリーに分けてきているため、健康日本21の多量飲酒の定義に合った正確な割合が集計できない。従って、多量飲酒の定義および調査票の質問内容を再検討する必要がある。  □中間評価と直近値は同じ解析方法で得られた数値であるが、策定時の解析方法は異なっているので、策定時の数値とその後の数値の単純な比較は困難であるではないか。		
(3) 最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○策定時に比すると、数値の動きはわずかではあるが悪くなっている。  □策定時のベースライン値との比較は困難であり、中間評価と直近実績値を比較すべきである。追跡期間は短い、改善方向に向かっている。		
(4) 今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5) その他コメント	□特定健診の問診でも飲酒頻度と量(3合以上)を確認している。補足的な資料として使えるか。アルコール依存症で治療を受けているまたはセルフヘルプグループに参加している人の統計はあるか。		

分野: アルコール			
目標項目: 5. 2 未成年者の飲酒をなくす(飲酒している人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H8年度未成年者の飲酒に関する全国調査)	中間評価 (H16年度未成年者の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査)	直近実績値 (H20年度未成年者の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査)
a) 男性(中学3年) 0%	26.0%	16.7%	9.1%
b) 男性(高校3年生) 0%	53.1%	38.4%	27.1%
c) 女性(中学3年) 0%	16.9%	14.7%	9.7%
d) 女性(高校3年生) 0%	36.1%	32.0%	21.6%
コメント			
	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
(1) 直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	○未成年者の飲酒率(月に1日以上飲酒しているものの割合)は低下傾向である。年度が進むにつれ男女差が減少し、平成20年度では、中学3年生において女性が男性を上回った。男女ともに、中学生より高校生のほうが飲酒率は高くなる。		
(2) データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。			
(3) 最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○目標に向けて改善した。		
(4) 今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5) その他コメント	□男子高校生は非常に低下している。月に1日以上飲まなければいいのか、という疑問も残る。		

分野: アルコール			
目標項目: 5.3 「節度のある適度な飲酒」の知識の普及(知っている人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H13年国民栄養調査)	中間評価 (H15年国民健康・栄養調査)	直近実績値 (H20国民健康・栄養調査)
a)男性 100%	50.3%	48.6%	54.7%
b)女性 100%	47.3%	49.7%	48.6%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
	○男女ともにベースラインからの改善に乏しく、知識の普及は進んでいない。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。			
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○策定時に比すると、数値の動きはわずかではあるが改善した。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	□キャンペーン不足ということか。		